

アガへ No.60

総主事 堤 弘雄

あなたの最良のものを

私たち人間は、神様ではありませんので、人を妬んだり、利己的であったりします。そのような人間社会の中で、周りを気にすることなく自由な心で生きていく上で勇気付けられる言葉と出会いました。それはマザーテレサの「あなたの最良のものを」という言葉です。

『人は不合理、非論理、利己的です。気にすることなく、人を愛しなさい。あなたが善を行うと、利己的な目的でそれをしたと言われるでしょう。気にすることなく、善を行いなさい。目的を達しようとするとき、邪魔立てする人に出会うでしょう。気にすることなく、やり遂げなさい。善い行いをして、おそらく次の日には忘れられるでしょう。気にすることなく、し続けなさい。』

あなたの正直さと誠実さが、あなたを傷つけるでしょう。気にすることなく正直で、誠実であり続けなさい。あなたが作り上げたものが、壊されるでしょう。気にすることなく、作り続けなさい。

(中略)  
最後に振り返ると、あなたにもわかるはずです。結局は、全てあなたと内なる神との間のことで、あなたと他の人との間であったことは一度も無かったのです。』

文章の最後に「内なる神との間のこと」とありますが、この「神」を「愛」に置き換えてみると理解ができるような気がします。

愛の姿について聖書にはこうあります。「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」(コリントの信徒への手紙13章4～7節)

人間は自分の中の神=愛と常に向き合いながら生きている存在なのかもしれません。



明治初期、キリスト教の教えを全国に広めようと誓い、後に「熊本バンド」と呼ばれるようになった青年たちを偲ぶ早天祈禱会が1月30日(日)、開催されました。早朝、花岡山に集まったのは、熊本YMCAの関係者、キリスト教高校の生徒、信者ら約300名。

135年前の1876年、35名の青年たちが誓いを立てた「奉教趣意書」の原文を熊本大学YMCA花陵会の山根彰太さんが、同口語訳をルーテル学院中学の田上紅羽さんが朗読しました。続いて、同志社の理事長でキリスト教学校教育同盟の理事長を務める野本真也さんが「熊本バンドの志を受け継ぐためにーいさかも疑わず」と題して奨励。野本さんは、「疑いを超え、神様を徹底的に信頼することこそが、生きる知恵を得る唯一の方法です。神様への絶対的な信頼をもとに、人格的な信頼関係のネットワークが広がっていった結果が、奉教趣意書であり、熊本バンドの誕生ではなかったのでしょうか。私たちが熊本バンドの志を受け継いでいくためには、私たち自身が、伝道、教育、社会活動に参加する働き手となることです」と語りました。

た「奉教趣意書」の原文を熊本大学YMCA花陵会の山根彰太さんが、同口語訳をルーテル学院中学の田上紅羽さんが朗読しました。続いて、同志社の理事長でキリスト教学校教育同盟の理事長を務める野本真也さんが「熊本バンドの志を受け継ぐためにーいさかも疑わず」と題して奨励。野本さんは、「疑いを超え、神様を徹底的に信頼することこそが、生きる知恵を得る唯一の方法です。神様への絶対的な信頼をもとに、人格的な信頼関係のネットワークが広がっていった結果が、奉教趣意書であり、熊本バンドの誕生ではなかったのでしょうか。私たちが熊本バンドの志を受け継いでいくためには、私たち自身が、伝道、教育、社会活動に参加する働き手となることです」と語りました。

熊本バンドの志を称える 早天祈禱会

「変わらない理念をYが変えていく」 研修を通して感じたこれからのYMCAの働き

2月3日(木)～6日(日)、阿蘇YMCAで開催された「西日本地区YMCAステップ1職員研修」では、日本社会事業大学専門職大学院講師、とげぬき生活館館長の坂口順治さんを講師に、熊本YMCAの職員6名を含む11名が学びを深めました。研修を終えた、熊本YMCA学院の桑原奈緒子さんからの報告です。

多くの学びと新たな決意に満ちた研修となりました。印象に残ったのは、「変わらない理念をY(YMCA or YUI スー私)が変えていく」という言葉。無縁社会に形容されるように、「コミュニケーション」の希薄化など、社会は変容しています。YMCAの理念が普遍のものである一方、時代の流れとともに、柔軟に対応していかなければならないことも実感しました。人間関係が和(受容・信頼)から積(積ること)で、積の人間関係を体験し、成長することができるのです。また、「コミュニケーション」は、人と人を結びつけ、絆を育みま

す。YMCAは出会いを通して、お互いの成長を促しています。キャンプや



様々なプログラムはそういった機会でもありません。その触媒となる働きが、YMCAのスタッフやリーダーに求められているのです。中でもユースの育成はこれからの活動の担い手育成として、重要課題の一つだと思っています。これからの時代に求められるもの、それは「Be With」。あなたがたがわたしを選んだのではない、わたしがあなたがたを選んだ(ヨハネによる福音書15章16節)とあるように、神様に選ばれた一人として、これからも尽力していきたいと思っています。

会員が集いクリーンアクション

開催日時/2011年1月22日(土)9時～11時  
開催場所/花岡山山頂付近  
熊本YMCAボランティアとして、会員や職員約130名が集まり、「熊本バンド」ゆかりの地である花岡山の清掃活動が行われました。今回で15回目。熊本バンドについて説明があった後、約1時間、花岡山山頂周辺を清掃。野外活動クラブ「サタデートムクラブ」「わんぱく大学地球クラブ」の子どもたちも参加し、終了後は準備されたせんざいを堪能しました。



行政の取り組みを身近に 市役所職員を講師に環境学習

開催日/2011年1月29日(土)  
開催場所/中央YMCA  
YMCA学院高等学校では、外部講師による特別講義を開催。熊本市環境保全局の職員を招いて、地球温暖化と水保全について学びました。



地球温暖化の講義では、環境企画課の植木英貴さんが温暖化のメカニズムをわかりやすく解説。エコライフの取り組みや社会全体が意識することで、温暖化を防ごうと呼びかけました。続いて、水保全課の松山賢司さんと猿渡勝幸さんが熊本の地下水について講義。熊本の水と世界各地の水の飲み比べもあり、生徒たちも熱心に耳を傾けていました。